ひと言でいえば、私は日本経済がうんとよくなると思います。

日本に黄金時代がやってくるのです。

日本経済の具体的な先行きについては第3章で詳しく述べますが、国土強靱化など安倍首相三選後の経済政策が好材料になりますし、そのための財政政策についても政府部内で検討が加えられています。ほかにも、東京オリンピック特需、リニア新幹線特需、そこに大阪万博がらみの特需が加わったのです。

景気の波という面では、私が敬愛する三菱ＵＦＪモルガン・スタンレー景気循環研究所所長の嶋中雄二さんが指摘するように、日本経済はまだまだ景気拡大の好循環をつづけます。この点についても、後ほど詳しく紹介します。

もちろん、アメリカの好景気はそろそろ終わります。アメリカ景気は、もったとしても２０１９年の後半までしょうし、目先は冷戦の勃発でニューヨーク市場も下がることでしょう。だからこそ、私はボイスメッセージ「今井澂の相場のウラ読み」で、２０１８年10月８日に「ニューヨークのハイテク株中心に暴落が起きます」と明言したのです。10月９日、10日と大幅下落が発生したのは、ご存じの通りです。

まだ誰もそんなことをいっていませんが、私は、この本が出る年末から年初にかけて、日経平均が２万円を割っているかもしれないと考えています。あるいは、アメリカの政治状況次第では、その下落が２０１９年年央まで長引き、下落幅はもう少し広がるかもしれないと考えています。

そうなれば読者の皆さんは「たいへんなことになった。日本株はもうダメかもしれない」と、暗い見通しをお持ちになるだろうと思います。しかし、それは取り越し苦労です。

日本株は、その大底から大きく反転上昇を始めるはずです。新冷戦時代ともなれば、海外投資家は必ず日本株を買ってくるからです。

私はすっかんかんの強気です。**「晴れた日には３万８９１５円が見える」**という２０１２年10月以来の相場観を依然として堅持しています。

新冷戦時代に要となる国が大きな成長を遂げる

今後の日本経済を考えるうえで何よりも忘れてならないのは、アメリカの冷戦と日本経済の関係です。